



光明荘



運営方針

オール光明荘で取り組む支援の定着

- 「根拠ある個別ケアの定着」
見守り支援機器による数値化されたデータの活用と標準的なケアを提供します。
- 「地域コミュニティでの活動の定着」
子どもから高齢者まで、年齢や障がいの有無に関わらない包括的な支援とコミュニティの場を作ります。
- 「職員の働きやすさの定着」
ICTや情報共有ツールの浸透による業務効率の実現と生産性向上に取り組みます。
職員の健康づくりに向けたサポート体制を構築します。

重点項目

見守り支援機器データを活用した認知症ケアの実践

- 多職種協働で認知症ケアチームを立ち上げ、見守り支援機器の睡眠データを活用しながらDBD13（認知症行動障害尺度）を指標として認知症ケアへのアプローチを行います。併せて、得られるデータ分析の手法について理解を深めながら、昼夜逆転や意欲低下のある方を中心に睡眠の質を評価し、生活リズムを整え、日中に活動していただけるよう、余暇活動の充実に繋がります。



質の高いサービス提供を実現するための取り組みの推進

- デイサービスにおいて機能訓練のみでなく、栄養ケアや口腔ケア等も含め、在宅での日常生活をトータルサポートできるよう、介護予防指導士の取得を順次進めていきます。機能訓練指導員と介護予防指導士の連携のもと、歩行分析アプリ「トルト」を活用し、個別のおすすめ運動を自宅でも習慣化してもらえよう、活動内容の充実を図ります。

効率性の高い業務体制の構築とDX化の推進

- 和泉市圏域においてケアプランデータ連携システム及び情報共有ツールの普及に向け、課題抽出と、その課題に沿った事業所連絡会や学習会等を市や他法人に向け開催します。他法人も含めてシステムや情報共有ツールを活性化させることで電話・FAXによる作業時間や通信費を削減します。業務効率が促進することで利用者支援の質向上に繋がります。



在宅・施設の垣根を越えたサービスの追及と人材育成

- 在宅・施設と複数事業を展開している強みを活かし、事業所間の体験研修及び実際に従事していくことで、一体感を醸成し複数の事業所で活動出来る人材の育成に取り組みます。併せて、各事業のサービス内容の理解を深め、事業種別毎の視点でご利用者と関わりを持つことで、光明荘全体で暮らしの継続を意識した支援サービスの提供に繋がります。
- 職員の活動範囲が広がることで、個々のスキルアップとキャリアデザインを支援します。また、事業所間の連携を強くし「オール光明荘」の具現化により、働きやすい職場づくりに取り組みます。

達成目標

人材育成に特化したプロジェクトチームを立ち上げ、育成スキームの構築と運用を行います。各部署1名以上実施。各事業所の役割や強みを互いに認識し、業務改善やサービスの向上に繋がります。



地域公益事業

子どもの居場所“ヒミツキチふせや”の拠点づくり

- 昨年度から実施している子どもの憩い処としての「ヒミツキチふせや」の継続と浸透を目指し、季節イベントの開催や回数の変更を柔軟に行いながら周知活動に取り組みます。他法人にも取り組みを紹介しながら参画を呼び掛け、不登校などの多様な課題を抱える子どもたちの居場所となる拠点の増加を目指し、子育てのしやすい環境づくりに繋がります。

取組効果

それぞれの地域で子どもの居場所が増えることにより、一人でも多くの子どもたちの成長や学びを支援することができます。



施設別事業計画

実施事業一覧

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 特別養護老人ホーム光明荘（定員120名） ■ 短期入所生活介護（定員20名） ■ 光明荘デイサービスセンター（定員40名） ■ 光明荘ヘルパーステーション | <ul style="list-style-type: none"> ■ 光明荘居宅介護支援事業所 ■ 光明荘訪問看護ステーション ■ 特別養護老人ホーム光明荘診療所 ■ 福祉有償運送 | <p>（和泉市委託事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 光明荘地域包括支援センター ■ 光明荘認知症機能強化型地域包括支援センター ■ 光明荘いきいきネット相談支援センター |
|--|--|---|